

石川県立伝統産業工芸館

企画展「手からうまれるカタチ」

取材のお願い

平成26年6月30日
経営支援課伝統産業振興室
TEL:076-225-1526 (内 4465)

石川県立伝統産業工芸館では、企画展「手からうまれるカタチ」を下記の通り行います。石膏型を用いて作る「やきもの」を、その制作方法である「排泥鑄込み成形」の紹介とともにご覧頂きます。ぜひ取材して頂けますようお願い致します。

- ◆ **タイトル：** 企画展「手からうまれるカタチ」
- ◆ **開催趣旨：** 陶磁器デザイナーでありながら、アイディアスケッチのような紙の上での作業をほとんど行わず、眼と手で思考し、手で探りながら制作していく過程を紹介するとともに、日常生活で使われるモノとはどのようなものなのか再考する事を目的としている。
- ◆ **企画展紹介：** 石膏型成形技術の中で最も一般的に用いられている「排泥鑄込み成形」の制作工程について詳しく紹介するとともに、図面や下絵、石膏型なども併せて展示し、そのような方法で制作された実際の作品と対応させつつ、この季節に相応しい涼やかな作品をご覧頂く。
- ◆ **会期：** 2014年7月1日(火) - 9月4日(木) 最終日は15:00まで
- ◆ **会場：** 2F 第3展示室
- ◆ **展示品：** 64点
- ◆ **協力：** 天池合繊株式会社

<出展者紹介>

田上知之介 (TAGAMI Tomonosuke)

1974 熊本県生まれ

1999 愛知県立芸術大学デザイン・工芸科 陶磁専攻 卒業

2009 筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻プロダクトデザイン領域 修了

<Awards>

1998 第5回国際陶磁器展美濃 陶磁器デザイン部門 入選

1999 日本デザインコミッティー・デザインフォーラム1999 入選

2000 日本クラフト展 ('00/'01/'02/'04 入選)

工芸都市高岡クラフトコンペティション ('00/'02)

2005 第7回国際陶磁器展美濃 陶磁器デザイン部門、カティ・トゥオミネン・ニートウラ賞

工芸都市高岡クラフトコンペティション、伊藤隆道賞

2007 パブリックコレクション (World Ceramic Exposition Foundation)

2008 第55回日本デザイン学会研究発表大会, グッドプレゼンテーション賞

<出展者からのメッセージ・田上知之介>

モノのデザインに取り組む時、頭に描いていたイメージを原寸大の石膏モデルを削り出すことから始める。イメージを具現化していく作業において、アイデアスケッチのようなペーパーワークはあまりやらない。削り出した石膏モデルを眺め、手で触り、「まだ少し違う。ピンとこない。」などと思いながら、何度も試行錯誤していると、ある時「ココ！」というポイントと出会う。眼と手で思考しながら探し当てたそれを、ペーパーワークから得られたことがない。未熟さ故だとも思うが、陶磁器デザインは手仕事から生まれるカタチなのだと考えている。

この企画展に並べられた作品は、そのようにして必死に創り出してきた作品の一部であるが、最も新しいものでも今から約9年前の作品になる。こうしてこれまでの作品を展示する機会を頂いたことで、現代の生活の中で本当に必要とされるデザインになっていたのかどうかを再考する機会となり、大変有り難く思っている。

最近では、毎日使う何でもないコップや、街の小さな個人商店、田舎の風景、農業や漁業に従事している人など、素朴で普遍的な姿で存在しているモノやコト、人に興味がある。何気ないけれども、力強さとたくましさを感じていて美しいと思う。一方で、人間の生活にとっても大切なそれらが、急速な社会変化の中で部分的にはあるが、徐々に失われつつあると感じている。陶磁器をはじめとして、日本の地場産業も同じ状況にある。そうした中で、陶磁器デザイナーとして取り組んだ仕事の質が、「個」で完結するようなモノで終止しているのならとても虚しい。だからこそ、モノを取り巻く社会や人、仕組みに目を向けたデザインに挑んでいくことを、これからのテーマとしたい。そのような中に、ちょっとワクワクするような陶磁器デザインの新しい未来があると考えている。

問合せ及び取材申し込み先：

石川県立伝統産業工芸館 <http://www.ishikawa-densankan.jp/>

TEL： 076-262-2020

指定管理者ナカダ・クラフトプロジェクト

プログラム担当： 館長代理 柳井 篤子

携帯 090-3470-2469 E-mail： 707@nkding.co.jp